

20.12.2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年12月18日
Date of Application:

出願番号 特願2003-420667
Application Number:

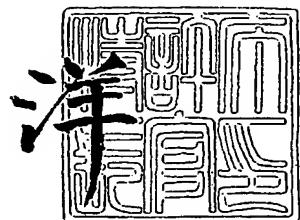
[ST. 10/C] : [JP2003-420667]

出願人 松下電器産業株式会社
Applicant(s):

2005年 2月 3日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特2005-3006312

【書類名】 特許願
【整理番号】 2048050022
【提出日】 平成15年12月18日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G06F 9/00
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 田中 朗宏
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 影本 英樹
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 山口 晃一郎
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 寺田 佳久
【特許出願人】
 【識別番号】 000005821
 【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100097445
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 岩橋 文雄
【選任した代理人】
 【識別番号】 100103355
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 坂口 智康
【選任した代理人】
 【識別番号】 100109667
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 内藤 浩樹
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 011305
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 9809938

【書類名】特許請求の範囲**【請求項 1】**

マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生システムであって、

マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供する1以上のコンテンツサーバと、

マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディアプラウザと、

モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生手段と、

前記モノメディア再生手段がモノメディアコンテンツ再生中に、ユーザからモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し、モノメディア再生手段に通知する再生状態変更指示手段と、を具備し、

前記モノメディアコンテンツ再生中の再生状態変更操作に応じて、前記モノメディアコンテンツ再生終了後に再生するコンテンツを変化させることを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項 2】

請求項1のコンテンツ再生システムにおいて、モノメディアコンテンツ再生終了後に再生するコンテンツを決定する戻り位置決定手段を具備し、モノメディア再生手段は、再生状態変更指示手段から再生状態変更指示を受信し再生状態を変更した情報を、戻り位置決定手段に通知することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項 3】

請求項2のコンテンツ再生システムにおいて、戻り位置決定手段は状態を持ち、モノメディア再生手段から再生状態変更通知を受信するごとに前記状態を変化させ、前記戻り位置決定手段はモノメディアコンテンツ再生終了時に、前記状態に応じて戻り位置を決定することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項 4】

請求項2のコンテンツ再生システムにおいて、前記戻り位置決定手段は、モノメディアコンテンツ再生終了後に、決定した戻り位置をマルチメディアプラウザに通知し、前記マルチメディアプラウザは、前記通知された戻り位置のコンテンツを再生することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項 5】

請求項2のコンテンツ再生システムにおいて、更に再生状態変更情報を保持する再生履歴蓄積手段を具備し、モノメディア再生手段は、再生状態変更指示手段から再生状態変更指示を受信し再生状態を変更すると、前記再生状態変更情報を前記再生履歴蓄積手段に通知し、前記戻り位置決定手段は、モノメディアコンテンツ再生終了後に、前記戻り位置決定手段は前記再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報の履歴を読み出し、戻り位置を決定することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項 6】

請求項5のコンテンツ再生システムにおいて、モノメディアコンテンツ再生終了後に再生するコンテンツは第一のコンテンツと第二のコンテンツであって、モノメディアコンテンツ再生終了時に、再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報として早送りや停止が存在する場合には第一のコンテンツを再生し、早送りや停止が存在しない場合には第二のコンテンツを再生することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項 7】

請求項1のコンテンツ再生システムにおいて、マルチメディアプラウザは状態を持ち、モノメディア再生手段から再生状態変更通知を受信するごとに前記状態を変化させ、前記マルチメディアプラウザはモノメディアコンテンツ再生終了時に、前記状態に応じて戻り位置を決定し再生することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項 8】

請求項1のコンテンツ再生システムにおいて、モノメディア再生手段は状態を持ち、再生状態を変更するごとに前記状態を変化させ、前記モノメディア再生手段はモノメディアコ

ンテンツ再生終了時に、前記状態に応じて戻り位置を決定しマルチメディアプラウザに戻り位置を通知することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項9】

請求項1のコンテンツ再生システムにおいて、再生履歴蓄積手段を具備し、モノメディア再生手段は再生状態を変更するごとに前記再生履歴蓄積手段に再生状態変更情報を通知し、前記再生履歴蓄積手段は受信した前記再生状態変更情報の履歴を蓄積することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項10】

請求項9のコンテンツ再生システムにおいて、モノメディア再生手段は、モノメディアコンテンツ再生終了後に、再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報の履歴を読み出し、戻り位置を決定することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項11】

請求項9のコンテンツ再生システムにおいて、マルチメディアプラウザは、モノメディアコンテンツ再生終了後に、再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報の履歴を読み出し、戻り位置を決定することを特徴とするコンテンツ再生システム。

【請求項12】

マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生方法であって、

マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツ提供ステップと、

マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディア再生ステップと、

モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生ステップと、

前記モノメディア再生ステップにおいて、ユーザからの早送りや停止などのモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し、モノメディアの再生状態を変更する再生状態変更指示ステップと、

前記再生状態変更ステップの処理に応じたコンテンツを、前記モノメディアコンテンツ再生ステップ終了後に再生する、次コンテンツ再生ステップと、を包含することを特徴とするコンテンツ再生方法。

【請求項13】

マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生方法が記録された媒体であって、

前記媒体は、

マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツ提供ステップと、

マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディア再生ステップと、

モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生ステップと、

前記モノメディア再生ステップにおいて、ユーザからの早送りや停止などのモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し、モノメディアの再生状態を変更する再生状態変更指示ステップと、前記再生状態変更ステップの処理に応じたコンテンツを、前記モノメディアコンテンツ再生ステップ終了後に再生する、次コンテンツ再生ステップと、が記録されていることを特徴とするコンテンツ再生方法が記録された媒体。

【請求項14】

マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生プログラムであって、

マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツ提供プログラムと、マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディア再生プログラムと、モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生プログラムと、前記モノメディア再生プログラムにおいて、ユーザからの早送りや停止などのモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し、モノメディアの再生状態を変更する再生状態変更指示プログラムと、前記再生状態変更プログラムの処理に応じたコンテンツを、前記モノメディアコンテ

ンツ再生プログラムの実行終了後に再生する、次コンテンツ再生プログラムとからなることとを特徴とするコンテンツ再生プログラム。

【書類名】明細書

【発明の名称】コンテンツ再生システム

【技術分野】

【0001】

本発明は、マルチメディアコンテンツの再生中に、再生中のマルチメディアコンテンツから動画等のモノメディアコンテンツへ遷移することが可能なシステムにおいて、モノメディアコンテンツの再生終了時に、モノメディアコンテンツの再生状況に応じて、戻り先となるマルチメディアコンテンツの位置を指定することを可能とするシステムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来技術として、ビデオCDインターネットなどの技術を応用して、インターネットブラウザからHTTPによってURLで指定されるデータとしてCD内の映像データを指定することで、前記CD内の映像をインターネットブラウザから指定して再生することが可能であった。

【0003】

特許文献1では、インターネットブラウザを含む装置に、プロキシ手段を持たせることで、CD内の映像の再生順番などを指定することを可能としている（特許文献1参照）。

【特許文献1】特開平10-333956号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、上記従来技術では、ごく一般的に考えられるサービス、例えば、ユーザが動画などのモノメディアコンテンツをCMも含めて全て視聴した場合に限り、特別なマルチメディアコンテンツまたはモノメディアコンテンツを再生することができるようとする、というサービスを実現することができない。

【0005】

そこで本発明は、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツを指定して再生する際に、ユーザのモノメディアコンテンツの再生状況に応じて戻り先を変化させる方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決する為に、本発明のコンテンツ再生システムは、URI (Uniform Resource Identifier) やURL (Uniform Resource Locator) 等で表されるマルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツサーバと、端末からなるシステムで、端末は、コンテンツサーバから受信したマルチメディアコンテンツを再生するマルチメディアブラウザと、コンテンツサーバから受信した動画などのモノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生手段と、モノメディアコンテンツを再生中に停止や早送りなどのユーザからの指示を受信し、それをモノメディア再生手段に通知する再生状態変更指示手段と、モノメディア再生中の停止や早送りなどの再生の履歴を蓄積する再生履歴蓄積手段と、モノメディアコンテンツの再生終了後に戻る先のマルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツの位置（URIやURLなど）を再生履歴蓄積手段に蓄積されている再生履歴を元に決定する戻り位置決定手段、とからなることを特徴とする。

【0007】

本発明は、マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生システムを提供し、ここで、前記コンテンツ再生システムは、マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供する1以上のコンテンツサーバと、マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディアブラウザと、モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生手段と、前記モノメディア再生手段がモノメディアコンテンツ再生中に、ユーザからモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し

、モノメディア再生手段に通知する再生状態変更指示手段と、を具備し、前記モノメディアコンテンツ再生中の再生状態変更操作に応じて、前記モノメディアコンテンツ再生終了後に再生するコンテンツを変化させることを特徴とする。

【0008】

本発明の一実施の形態において、上記コンテンツ再生システムはさらに、モノメディアコンテンツ再生終了後に再生するコンテンツを決定する戻り位置決定手段を具備し、モノメディア再生手段は、再生状態変更指示手段から再生状態変更指示を受信し再生状態を変更した情報を、戻り位置決定手段に通知する。

【0009】

本発明の一実施の形態において、上記戻り位置決定手段は状態を持ち、モノメディア再生手段から再生状態変更通知を受信するごとに前記状態を変化させ、前記戻り位置決定手段はモノメディアコンテンツ再生終了時に、前記状態に応じて戻り位置を決定する。

【0010】

本発明の一実施の形態において、前記戻り位置決定手段は、モノメディアコンテンツ再生終了後に、決定した戻り位置をマルチメディアプラウザに通知し、前記マルチメディアプラウザは、前記通知された戻り位置のコンテンツを再生する。

【0011】

本発明の一実施の形態において、上記コンテンツ再生システムは、更に、再生状態変更情報を保持する再生履歴蓄積手段を具備し、モノメディア再生手段は、再生状態変更指示手段から再生状態変更指示を受信し再生状態を変更すると、前記再生状態変更情報を前記再生履歴蓄積手段に通知し、前記戻り位置決定手段は、モノメディアコンテンツ再生終了後に、前記戻り位置決定手段は前記再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報の履歴を読み出し、戻り位置を決定する。

【0012】

本発明の一実施の形態において、上記モノメディアコンテンツ再生終了後に再生するコンテンツは第一のコンテンツと第二のコンテンツであって、モノメディアコンテンツ再生終了時に、再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報として早送りや停止が存在する場合には第一のコンテンツを再生し、早送りや停止が存在しない場合には第二のコンテンツを再生する。

【0013】

本発明の一実施の形態において、上記マルチメディアプラウザは状態を持ち、モノメディア再生手段から再生状態変更通知を受信するごとに前記状態を変化させ、前記マルチメディアプラウザはモノメディアコンテンツ再生終了時に、前記状態に応じて戻り位置を決定し再生する。

【0014】

本発明の一実施の形態において、上記コンテンツ再生システムにおいて、モノメディア再生手段は状態を持ち、再生状態を変更するごとに前記状態を変化させ、前記モノメディア再生手段はモノメディアコンテンツ再生終了時に、前記状態に応じて戻り位置を決定しマルチメディアプラウザに戻り位置を通知する。

【0015】

本発明の一実施の形態において、上記コンテンツ再生システムは、再生履歴蓄積手段を具備し、モノメディア再生手段は再生状態を変更するごとに前記再生履歴蓄積手段に再生状態変更情報を通知し、前記再生履歴蓄積手段は受信した前記再生状態変更情報の履歴を蓄積する。

【0016】

本発明の一実施の形態において、上記モノメディア再生手段は、モノメディアコンテンツ再生終了後に、再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報の履歴を読み出し、戻り位置を決定する。

【0017】

本発明の一実施の形態において、上記マルチメディアプラウザは、モノメディアコンテ

ンツ再生終了後に、再生履歴蓄積手段に保持されている再生状態変更情報の履歴を読み出し、戻り位置を決定する。

【0018】

本発明はまた、マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生方法を提供し、ここで、上記方法は、マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツ提供ステップと、マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディア再生ステップと、モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生ステップと、前記モノメディア再生ステップにおいて、ユーザからの早送りや停止などのモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し、モノメディアの再生状態を変更する再生状態変更指示ステップと、前記再生状態変更ステップの処理に応じたコンテンツを、前記モノメディアコンテンツ再生ステップ終了後に再生する、次コンテンツ再生ステップと、を包含することを特徴とする。

【0019】

本発明はまた、マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生方法が記録された媒体を提供し、ここで、前記媒体は、マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツ提供ステップと、マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディア再生ステップと、モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生ステップと、前記モノメディア再生ステップにおいて、ユーザからの早送りや停止などのモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し、モノメディアの再生状態を変更する再生状態変更指示ステップと、前記再生状態変更ステップの処理に応じたコンテンツを、前記モノメディアコンテンツ再生ステップ終了後に再生する、次コンテンツ再生ステップと、が記録されていることを特徴とする。

【0020】

本発明はまた、マルチメディアコンテンツからリンクを辿ってモノメディアコンテンツを再生するコンテンツ再生プログラムを提供し、ここで、上記コンテンツ再生プログラムは、マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツ提供プログラムと、マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディア再生プログラムと、モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生プログラムと、前記モノメディア再生プログラムにおいて、ユーザからの早送りや停止などのモノメディアコンテンツの再生状態を変更する指示を受信し、モノメディアの再生状態を変更する再生状態変更指示プログラムと、前記再生状態変更プログラムの処理に応じたコンテンツを、前記モノメディアコンテンツ再生プログラムの実行終了後に再生する、次コンテンツ再生プログラムとからなることを特徴とする。

【発明の効果】

【0021】

これにより、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツを再生する場合において、モノメディアコンテンツの再生状況に応じてモノメディアコンテンツ再生終了後の遷移先を変化させることが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0022】

以下、本発明の実施の形態を、図面を参照しながら説明する。

【0023】

(実施の形態1)

本コンテンツ再生システムは、端末でマルチメディアコンテンツを再生中に、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツを指定して再生する際に、ユーザのモノメディアコンテンツの再生状況に応じて戻り先を決定するシステムである。なお、マルチメディアコンテンツとはHTMLなどで記述されたホームページ等を表し、モノメディアコンテンツとは映像や音声などの連続した一定の期間再生して鑑賞するようなコンテンツを表すものとする。

【0024】

図1は、本実施の形態のコンテンツ再生システムの構成を表す図である。コンテンツサーバ101は端末からの要求に応じて、マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを端末に伝送する装置である。一方端末は、マルチメディアコンテンツを再生するマルチメディアブラウザ102と、モノメディアコンテンツを再生するモノメディア再生手段103と、早送りや停止などのユーザからのモノメディア再生指示を受信し、モノメディア再生手段103に通知する再生状態変更指示手段104と、モノメディア再生手段103での早送りや停止などの再生履歴を蓄積する再生履歴蓄積手段105と、再生履歴蓄積手段105の再生履歴情報とマルチメディアブラウザ102の遷移条件情報とからURIやURLなどの戻り位置を決定する戻り位置決定手段106とから構成される。

【0025】

本発明では、コンテンツサーバ101や端末は1台ずつでも良いし、それぞれ複数あっても良いが、発明の本質とは関係しないため、本実施の形態では、コンテンツサーバ101、端末、共に1台ずつの構成で説明する。

【0026】

コンテンツサーバ101は、端末からの要求を受信し、要求に応じたコンテンツを返すもので、現在インターネットなどで普通に用いられているWEBサーバと同等の技術で実現可能である。基本的に、マルチメディアコンテンツの場合にはHTTPで通信し、モノメディアコンテンツの場合にはRTTなどのストリーミングで通信するが、モノメディアコンテンツであってもHTTPでコンテンツをダウンロードしてから再生しても良い。

【0027】

マルチメディアブラウザ102に関しては、インターネットの世界でHTMLブラウザ技術として既に定着しており、マルチメディアブラウザ102のブラウジング機能自体についても、従来の技術を用いることで実現可能である。マルチメディアブラウザ102でマルチメディアコンテンツ再生中に、動画へのリンクをクリックするなどして、モノメディアコンテンツの再生が開始すると、マルチメディアブラウザ102からモノメディア再生手段103へ、再生するモノメディアコンテンツの位置と再生指示を通知し、かつ、モノメディアコンテンツ再生が終了した時の戻り位置に関する情報（遷移条件情報）を、戻り位置決定手段106に通知する。

【0028】

モノメディア再生手段103は、サーバからストリーミング、または、ダウンロードで送信されるモノメディアコンテンツを再生する機能を持ち、モノメディアコンテンツの種類によっては一時停止、早送り、再生停止などの特殊再生も可能である。前記特殊再生の指示は、ユーザがリモコン等を通じて指示することを想定しており、再生状態変更指示手段104がユーザの指示を受信して、特殊再生の指示をモノメディア再生手段103に通知する。

【0029】

モノメディア再生手段103は、再生状態変更指示手段104からの指示に応じて特殊再生を実施するが、その際にどのような特殊再生を実施したかをその都度再生履歴蓄積手段105に通知する。モノメディア再生手段103から受信した再生指示の履歴は、再生履歴蓄積手段105によって蓄積される。

【0030】

モノメディア再生手段103でモノメディアコンテンツの再生を終了すると、戻り位置決定手段106にその旨を通知し、戻り位置決定手段106は、モノメディアコンテンツ再生開始時にマルチメディアブラウザ102から通知を受けた遷移条件情報と、再生履歴蓄積手段105に蓄積されている再生履歴を元に、戻り位置を決定する。前記戻り位置決定処理に関する詳細は後述する。戻り位置決定手段106によって決定された戻り位置は、マルチメディアブラウザ102に通知され、マルチメディアブラウザ102は前記戻り位置に該当するコンテンツの再生を開始する。

【0031】

以下に、本実施の形態を、例を示して説明する。

【0032】

図2は、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツの再生を行う場合の記述例である。この記述例では、リンク指定201の行にて、通常のHTML文書でモノメディアコンテンツのURLへのアンカータグでリンクすることで、モノメディアコンテンツの再生を指定している。ただし、リンク先であるモノメディアコンテンツのURLに続けて“#”で区切った戻りURL1、戻りURL2が記述されている点で通常のHTML文書でのリンクと異なる。

【0033】

前記リンク指定201で示した戻りURL1、戻りURL2は、両者とも指定されたモノメディアコンテンツの再生が終了した後に提示するコンテンツのURLを示すが、戻りURL1はモノメディアコンテンツを最初から最後まで全て再生した場合に戻るURLを表し、戻りURL2はモノメディアコンテンツ再生中に途中で早送りをしたり、再生を途中で停止したりして、ユーザがモノメディアコンテンツ全体を視聴しなかった場合に戻るURLを表している。

【0034】

図3および図4は、マルチメディアブラウザ102が図2に示すマルチメディアコンテンツを再生している時に、ユーザがリンク指定201を選択することで、モノメディアコンテンツのURLで指定されているモノメディアコンテンツを再生する際の処理を表すフローである。

【0035】

マルチメディアコンテンツの再生処理を開始すると、ステップS300にてマルチメディアブラウザ102でマルチメディアコンテンツの再生を開始する。マルチメディアコンテンツ再生中にユーザがマルチメディアブラウザ102を通じて、リンク指定201を選択しモノメディアコンテンツの再生を指示する（ステップS301）と、マルチメディアブラウザ102は戻りURL1と戻りURL2を戻り位置決定手段106に通知し（ステップS302）、リンク指定201に記述されているモノメディアコンテンツの配信をコンテンツサーバ101に要求しモノメディア再生手段103に該コンテンツの再生指示を出す（ステップS303）。

【0036】

マルチメディアブラウザ102からモノメディアコンテンツの再生指示を受信したモノメディア再生手段103は、コンテンツサーバ101から送信されてくるモノメディアコンテンツを再生開始する（ステップS304）。ステップS304の処理実行後、図4のステップS400へ遷移する。

【0037】

ステップS400ではモノメディアコンテンツの再生が終了したかを判断し、モノメディアコンテンツの再生が終了していない場合ステップS401へ遷移し、モノメディアコンテンツの再生が終了している場合ステップS405へ遷移する。ここで、モノメディアコンテンツの再生が終了するとは、再生対象モノメディアコンテンツを最後まで再生し終えたときか、または、再生途中にユーザからの処理で停止が指示された場合などを指すこととする。

【0038】

ステップS400でモノメディアコンテンツの再生が終了していなかった場合、ステップS401でユーザが再生状態変更指示手段104に対して再生状態変更指示を出しているかどうかを判断する。再生状態変更指示を出している場合ステップS402へ遷移し、再生状態変更指示を出していない場合ステップS404へ遷移する。ここで、再生状態変更指示とは、ユーザからの停止、早送り、巻き戻し、一時停止指示等を表すこととする。

【0039】

ステップS401でユーザが再生状態変更指示を出していた場合、ステップS402にて、再生状態変更指示手段104がモノメディア再生手段103に対して、再生状態変更指示を受信した旨を通知する。

【0040】

再生状態変更指示受信の通知を受けたモノメディア再生手段103は、指示内容に応じた再生状態の変更要求をコンテンツサーバ101へ通知すると同時に、再生状態変更指示の情報を再生履歴蓄積手段105へ通知し、再生履歴蓄積手段105は前記情報を格納する（ステップS403）。

【0041】

ステップS401で再生状態変更指示を受信していなかった場合、または、ステップS403の処理実行後、ステップS404へ遷移し、モノメディア再生手段103がコンテンツサーバ101から受信したモノメディアコンテンツのデータを再生する。

【0042】

ステップS400でモノメディアコンテンツの再生が終了していた場合、ステップS405へ遷移し、モノメディア再生手段103がモノメディアコンテンツの再生が終了した旨を戻り位置決定手段106に通知する。前記再生終了通知を受信した戻り位置決定手段106は、再生履歴蓄積手段105に蓄積されている再生状態変更の履歴情報と、該モノメディアコンテンツを再生したときのリンク指定に記述されていた、戻りURLの情報を参照し（ステップS406）、再生履歴蓄積手段105に早送り、または、停止した履歴が存在するかどうかを判定する（ステップS407）。

【0043】

ステップS407にて、早送り、または、停止の履歴が存在する場合、戻り位置決定手段106は戻りURL2、すなわち、リンク指定記述で2つ目の#の後に記述されているURLを戻り位置としてマルチメディアブラウザ102に通知する（ステップS408）。

【0044】

一方、ステップS407にて、早送り、または、停止の履歴が存在しない場合、戻り位置決定手段106は戻りURL1、すなわち、リンク指定記述で1つ目の#の後に記述されているURLを戻り位置としてマルチメディアブラウザ102に通知する（ステップS409）。

【0045】

ステップS408、または、ステップS409の処理後、ステップS410へ遷移し、マルチメディアブラウザ102は戻り位置決定手段106から受信した戻り位置で指定されるURLのコンテンツを再生開始し、ステップS300へ遷移する。

【0046】

また、戻りURLとして、マルチメディアコンテンツではなくモノメディアコンテンツを指定することも可能である。その場合、ステップS410の処理終了後にステップS300へ遷移するのではなく、戻りURLがクリックされたものとして、ステップS302へ遷移する。

【0047】

なお、本実施の形態では、戻り位置決定手段106が再生履歴蓄積手段105に蓄積されている再生履歴と戻りURLを元に戻り位置を決定してからマルチメディアブラウザ102へ通知しているが、マルチメディアブラウザ102が再生履歴蓄積手段105に蓄積されている再生履歴と戻りURLを元に戻り位置を決定しても良い。更に、再生履歴蓄積手段105を具備せずに、マルチメディアブラウザ102が再生情報を直接受信し蓄積しても良い。

【0048】

なお、本実施の形態では、リンク指定201で戻りURLを区切るために“#”という記号を使用しているが、別の記号を使用したり、記号を使用することなく、テーブルで表を持つなど、別の方法で遷移先URLと戻りURLを区別して2つの戻りURLを指定したりしても良いことは言うまでもない。

【0049】

以上示した処理により、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツを再生

した際に、モノメディアコンテンツを、最初から最後まで全て視聴した場合と、途中を早送りしたり途中で停止したりした場合とで、次に再生するコンテンツを変化させることが可能となる。

【0050】

(実施の形態2)

図5は、本実施の形態における、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツの再生を行う場合の記述例である。この記述例では、図2に示した記述例と同様、リンク先であるモノメディアコンテンツのURLに続けて“#”で区切って戻りURLが記述されている。ただし、戻りURLの後に、戻り条件が“\$”で区切って記述されている点と、戻りURLの数を3種類以上記述できる点で異なる。

【0051】

以下に、本実施の形態が実施の形態1と異なる点について説明する。

【0052】

図5に示すように、本実施の形態では、戻りURLとして3種類以上のURLの記述を可能としており、戻りURLの後に続けて“\$”でそのURLに戻るための条件を記述する点で異なる。

【0053】

図6に戻り条件の記述例を示す。なお、図6では戻り条件の記述例を表すために正規表現を使用している。図6に示すように、戻り条件は“COMMAND TERM DURATION”で表され、前記繰り返し単位のうちCOMMANDは出現が必須だが、TERMとDURATIONは記述されていなくても良い。

【0054】

前記記述のうち、COMMANDは再生状態変更のコマンドを表し、それぞれSTOP、FF、REW、PAUSE等のいずれかを表し、STOPは再生を停止した、FFは早送りをした、REWは巻き戻しをした、PAUSEは一時停止をした、等を意味する。また、COMMANDの直前に“!”を記述することで対象のコマンドが実行されなかった場合の条件を表すものとする。

【0055】

TERMは、条件が有効となる期間を基本的に、何時何分何秒から何時何分何秒の間という形で表す。例えば、00:05:00-00:10:00であれば、モノメディアコンテンツの開始地点から5分目から10分目の間に、COMMANDで示される操作がなされた場合に、該当する条件が有効となる。

【0056】

また、何時何分何秒以前、何時何分何秒以降、という記述も可能である。その場合、“-”の後ろ、または、前の時刻を省略することで表現可能である。例えば、-00:10:00はモノメディアコンテンツの開始地点と開始地点から10分目の位置の間を表し、00:30:00-はモノメディアコンテンツの開始地点から30分目の位置から最後までを表す。

【0057】

DURATIONは、対象のコマンドをどのくらいの期間実行していたかを表し、秒単位での整数値が記述される。例えば、FF 100-という記述の場合、早送りを100秒間分以上行った場合に前記条件が有効になることを表す。

【0058】

なお、本実施の形態ではTERMやDURATIONで表現できる最小単位を秒単位としているが、ミリ秒などの秒よりも小さい単位まで記述できるようにしても良いことは言うまでもない。

【0059】

図5は、前記記述方法に従って記述された、モノメディアコンテンツへのリンク指定501を含む。リンク先として最初にモノメディアコンテンツのURLが記述されており、次に“#”を区切りとして戻りURL1が記述されている。戻りURL1へ遷移する条件

として“\$”を区切りとしてSTOPが記述されており、ユーザがモノメディアコンテンツの再生を途中で停止した場合には、次に戻りURL1を再生することが分かる。

【0060】

次に、“#”を区切りとして戻りURL2が条件とともに記述されている。条件は「!FF 00:05:00-00:10:00」であるため、5分目から10分目までの間に早送りがなされなかった場合にこの条件が真となる。戻りURL3の条件は「FF 30-」であるため、モノメディアコンテンツの開始位置から30秒目以降で早送りをした場合に真となる。

【0061】

本実施の形態では、戻り位置の判定は、リンク指定に記述されている戻りURLを始めから順に見て、最初に条件に合致したURLへ遷移するものとするが、条件に合致するURLが複数ある場合、前記条件に合致するURLをユーザ提示して選択させるようにしても良いし、どの戻りURLの条件にも合致しなかった場合に遷移するURLをデフォルトで決めておいたり、モノメディアコンテンツへ遷移する前に提示していたコンテンツを再生することとしたりしても良い。

【0062】

図7は、再生履歴蓄積手段105に蓄積する再生履歴の例を表す図である。この例では、ユーザがモノメディアコンテンツの再生を開始してからの再生履歴が示されている。前記再生履歴を見ると、再生開始後、5分目の時点から7分目の時点と、35分目の時点から40分30秒目の時点の2回で早送りをし、40分30秒目の時点ですぐに40分目の時点まで巻き戻しをし、45分目の時点で一時停止をしていることが分かる。

【0063】

なお、再生履歴にはモノメディアコンテンツの再生を開始したことを表すSTARTが最初に必ず記録されるものとする。STARTに関しては、モノメディアコンテンツの再生開始を表しているだけのため、操作タイミングは特に記録しない。

【0064】

実施の形態1では戻り位置決定手段106で戻り位置を決定する際に、図4に示したように、モノメディアコンテンツ再生中に停止か早送りをしたかどうかで戻り位置を決定していたが、本実施の形態では、戻りURLごとに条件が設定されているため、条件に合致するかどうかを判断する処理が加わる点で、実施の形態1と異なる。

【0065】

図8は、本実施の形態で戻り位置決定手段106が戻りURLを決定する際の、処理フローである。以下に、戻り位置決定手段106が戻りURLを決定する際の処理を図8のフローチャートを用いて説明する。

【0066】

モノメディアコンテンツの再生が終了し、戻り位置決定処理が開始すると、戻り位置決定手段106はステップS800で前記モノメディアコンテンツへ遷移してきた元のリンク指示に記述されていた最初の戻りURLを判定対象URLに設定し、前記戻りURLの後の“\$”に続けて記載されている条件を判定条件とし、ステップS801へ遷移する。ステップS801では、再生履歴蓄積手段105に蓄積されている再生履歴の最初の操作を判定対象操作とする。

【0067】

次にステップS802へ遷移し、判定条件のコマンドが“!”で始まるかどうかを判断する。前記コマンドが“!”で始まる場合、ステップS806へ遷移し、“!”で始まらない場合ステップS803へ遷移する。

【0068】

ステップS802でnoの場合、ステップS803において判定対象操作が判定条件を満たすかどうかを判断する。前記条件を満たす場合ステップS811へ遷移し、その時点の判定対象URLを戻り位置と決定し処理を終了する。

【0069】

ステップS803において前記条件を満たさない場合、ステップS804へ遷移し、再生履歴の全操作を判定対象操作として検査したかどうかを判断する。全操作を検査していない場合、再生履歴から、その時点の判定対象操作の次の操作を判定対象操作として設定し（ステップS805）、ステップS803へ遷移する。ステップS804において、その時点での判定条件下で、全ての操作を判定対象操作として検査済みであると判断した場合、ステップS809へ遷移する。

【0070】

ステップS809では、リンク指定に記述されている全ての戻りURLについて検査したかどうかを判断し、noの場合ステップS812へ遷移し、デフォルトの戻りURLを戻り位置に設定し、処理を終了する。ステップS809においてyesと判断した場合、ステップS810へ遷移し、その時点の判定対象URLの次に記述されている戻りURLを新たに判定対象URLと設定し、前記新たに設定した判定対象URLの条件を判定条件と設定し、ステップS801へ遷移する。

【0071】

一方、ステップS802にて、判定条件のコマンドが“!”で始まらない場合には、ステップS806へ遷移し、判定対象操作が判定条件を満たすかどうかを判断する。ステップS806での判断がyesの場合ステップS807へ遷移し、noの場合ステップS809へ遷移する。

【0072】

ステップS806での判断がyesの場合、ステップS807にて再生履歴に記録されている全操作を検査済みかどうかを判断し、yesの場合ステップS811へ遷移し、noの場合ステップS808へ遷移する。

【0073】

ステップS808においては、再生履歴に記録されている操作のうち、その時点の判定対象操作の次の操作を新たに判定対象操作に設定してステップS806へ遷移する。

【0074】

以下に、例として、図5に示すリンク指定を選択し、図7の再生履歴に示す操作を実行した後、モノメディアコンテンツの再生が終了した場合の、戻り位置の決定処理を示す。

【0075】

モノメディアコンテンツ再生終了後、戻り位置決定手段106はステップS800にて最初の戻りURLである戻りURL1を判定対象URLとし、その条件である“STOP”を判定条件とする。次にステップS801に遷移して、再生履歴の最初の操作であるSTART操作を判定対象操作とする。ステップS802での判定はnoとなり、ステップS803へ遷移する。判定条件はSTOPであるためステップS804へ遷移し、この時点では全操作を検査していないためステップS805で判定対象操作をFF（5分-7分）に設定しステップS803へ遷移する。

【0076】

判定対象操作FF（5分-7分）も判定条件を満たしていないため、ステップS804へ遷移し、この時点でも全操作を検査していないためステップS805へ遷移する。

【0077】

同様の処理を再生履歴7で示す全操作に対して実施しても、判定条件に合致する操作が無いため、ステップS804でyesと判断されステップS809へ遷移する。

【0078】

ステップS809では、全ての戻りURLを検査したかどうかを判断し、この時点ではまだ検査していない戻りURLが存在するため、ステップS810へ遷移し、次の戻りURLである戻りURL2を判定対象URL、その条件である“!FF 00:05:00-00:10:00”を判定条件とする。前記判定条件は、5分目から10分目の間で早送りをするという操作以外の場合に満たされるものである。その後、ステップS801へ遷移する。

【0079】

ステップS801では、再び再生履歴の最初の操作であるSTARTを判定対象操作とし、ステップS802でyesと判断されるためステップS806へ遷移する。

【0080】

判定対象操作はSTARTで、判定条件を満たしているためステップS807へ遷移する。ステップS807では、再生履歴にまだ検査していない操作が残っているためnoと判断し、ステップS808にて次の操作であるFF（5分～7分）を判定対象操作とし、ステップS806へ遷移する。

【0081】

ステップS806において、判定対象操作が判定条件を満たさないため、ステップS809へ遷移する。この時点では、まだ検査していない戻りURLが存在するため、ステップS809においてnoと判断しステップS810で、次の戻りURLである戻りURL3を判定対象URLとし、その条件である“\$FF 30-”が判定条件とし、ステップS801へ遷移する。前記判定条件は、30秒間以上の早送りをした場合に真となる。

【0082】

ステップS801で、前回と同様に再生履歴の最初の操作を判定対象操作とし、ステップS802でnoと判断しステップS803へ遷移する。ステップS804、ステップS805と処理を行い、判定対象操作が“FF（5分～7分）”になり、ステップS803でyesの判断となり、ステップS811へ遷移する。ステップS811で、その時点の判定対象URLである戻りURL3を戻り位置として、戻り位置決定処理を終了する。

【0083】

なお、本実施の形態では、戻り位置決定手段106が再生履歴蓄積手段105に蓄積されている再生履歴と戻りURLを元に戻り位置を決定してからマルチメディアブラウザ102へ通知しているが、マルチメディアブラウザ102が再生履歴蓄積手段105に蓄積されている再生履歴と戻りURLを元に戻り位置を決定しても良い。更に、再生履歴蓄積手段105を具備せずに、マルチメディアブラウザ102が再生情報を直接受信し蓄積しても良い。

【0084】

なお、本実施の形態では、リンク指定501で戻りURLを区切るために“#”という記号を、戻り条件との区切りに“\$”という記号を、それぞれ使用しているが、別の記号を使用したり、記号を使用することなく、テーブルで持つなどの別の方法で遷移先URLと戻りURLを区別して、戻りURLや戻り条件を指定したりしても良いことは言うまでもない。

【0085】

なお、戻り条件としてANDまたはORで区切った“COMMAND TERM DURATION”を複数並べても良い。この際に、括弧を利用して条件の順序を明確にすることも可能とする。この場合戻り位置決定処理の際に、対象戻りURLへ戻る条件はANDやORで区切られた各条件を、AND、ORを用いた論理式の結果となる。

【0086】

以上示した処理により、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツを再生した際に、モノメディアコンテンツの再生状況に応じて次に再生するコンテンツを変化させることが可能となる。

【0087】

（実施の形態3）

図9は、本実施の形態のコンテンツ再生システムの構成を表す図である。本実施の形態の構成は、実施の形態1、実施の形態2と比較して、再生履歴蓄積手段を具備しなくとも良い点において異なる。実施の形態1、実施の形態2と処理が同じ構成要素に付いては、図1と同じ番号を振っている。

【0088】

実施の形態1および実施の形態2では、モノメディア再生手段103は再生状態変更指示を受信すると、その操作情報を再生履歴蓄積手段105に通知していたが、本実施の形

態では、モノメディア再生手段903は再生状態変更指示を受信すると、その操作情報を戻り位置決定手段906に通知する。

【0089】

戻り位置決定手段906では、操作の履歴を蓄積して最後に戻り位置を決定するのではなく、モノメディア再生手段903から再生状態変更の操作情報を受信するごとに状態を変化させることで、モノメディアコンテンツの再生終了時に、戻り位置を決定する。

【0090】

以下に、戻り位置決定手段906が操作情報を受信した時の状態変化と、戻り位置決定の処理について説明する。

【0091】

図10は、本実施の形態において、モノメディアコンテンツの再生を開始してから終了するまでの、戻り位置決定手段906の処理を表すフローである。戻り位置決定手段906は、モノメディアコンテンツの再生が開始すると、該当コンテンツへ遷移した際の戻りURL全てを検査対象URLとし、前記検査対象URLのうち戻り条件が“!”で始まるURLを戻り位置候補URLとする（ステップS1000）。前記戻り位置候補URLも検査対象URLに含まれるものとする。

【0092】

次にステップS1001にて再生終了通知を受信すると、ステップS1009へ遷移する。再生終了通知を受信していない場合、ステップS1002でモノメディア再生手段903から再生状態変更通知を受信したかを判断する。再生状態変更通知を受信していない場合、ステップS1001へ遷移する。

【0093】

ステップS1002にて再生状態変更通知を受信していた場合、全検査対象URLを対象としてステップS1003からステップS1008の処理を実施する。ステップS1003で、対象とするURLの戻り条件が“!”で始まるかどうかを判断し、yesの場合ステップS1007へ遷移し、noの場合ステップS1004へ遷移する。

【0094】

ステップS1004にて、ステップS1002で受信した操作と対象URLの戻り条件を比較し、操作が戻り条件に合致する場合、対象URLよりも後に書かれている戻りURLを検査対象URLから外し（ステップS1005）、対象URLを戻り候補URLに設定する。ステップS1004でnoの判断だった場合、次の戻りURLを対象URLとしてステップS1003からのループ処理を行う。次の戻りURLが無い場合、ステップS1001へ遷移する。

【0095】

ステップS1003でyesだった場合、ステップS1007で受信した操作が戻り条件の“!”を除いた条件に合致するかどうかを判断する。ステップS1007でyesだった場合、ステップS1008へ遷移し対象URLを検査対象URLから外す。ステップS1008以降の処理やステップS1007でnoだった場合の処理は、ステップS1006以降の処理と同様である。

【0096】

以下に、例として図5に示すリンク指示を選択してモノメディアコンテンツを図7に示す操作で実行した場合の処理を示す。

【0097】

図5のリンク指定からモノメディアコンテンツの再生を開始すると、戻り位置決定手段906は、ステップS1000にて全戻りURLを検査対象とし、戻り条件が“!”で始まるURLを戻り位置候補URLとする。図5で示すリンク指定501の場合、検査対象URLは、戻りURL1、戻りURL2、戻りURL3、…となる。

【0098】

モノメディアコンテンツの再生を図7に示す操作で再生した場合、最初に5分目から7分目を早送りした旨が通知される（ステップS1002、yes）。検査対象URL毎の

ループ処理に遷移し、最初のURLの戻り条件はSTOPであるためステップS1003はnoとなり、ステップS1004へ遷移する。操作はFFであるのに対して、戻り条件はSTOPであるため、ステップS1004の判断はnoとなり次の検査対象URLである戻りURL2を対象として、ステップS1003へ遷移する。

【0099】

戻りURL2の戻り条件は、!FF(5分目～10分目)であるため、ステップS1003の判断はyesとなりステップS1007へ遷移する。操作がFF(5分目～7分目)で条件がFF(5分目～10分目)であり、条件が合致するためステップS1007の判断はyesとなり、ステップS1008へ遷移する。

【0100】

ステップS1008では、対象URLである戻りURL2を検査対象URLから外す。また、検査対象URLから外される際に戻りURL2は、戻り候補URLからも外される。

【0101】

次に、戻りURLの次の検査対象URLである戻りURL3を対象URLとしてステップS1003へ遷移する。戻りURL3に関しては、ステップS1003でnoとなり、ステップS1004でyesとなるため、ステップS1005で戻りURL3よりも後に記述されている戻りURLを検査対象URLから外し、ステップS1006で戻りURL3を戻り位置候補URLに設定する。

【0102】

この時点で、検査対象URLを全て調べ終えたため、再びステップS1001へ遷移する。同様にして、図7における703、704、705の各操作に対して、戻りURL1と戻りURL3に対して、ステップS1003からステップS1008の処理を実行しステップS1001へ遷移する。

【0103】

モノメディアコンテンツの再生が終了すると、ステップS1001でyesとなり、ステップS1009へ遷移する。ステップS1009においては、戻りURL3が戻り候補URLであるため、ステップS1010へ遷移し、戻りURL3を戻り位置と決定する。

【0104】

なお、本実施の形態も、実施の形態2と同様、モノメディアコンテンツへのリンク指示を記述する際の、戻りURLや戻り条件の標記形式を変えたり、戻り条件を論理式で記述したり、戻り位置を戻り位置決定手段が決定するのではなくブラウザで決定したりしても良いことは言うまでも無い。

【0105】

なお、本実施の形態において、戻り位置を決定するための状態をモノメディア再生手段が再生状態変更指示を受信するごとに実行して、モノメディア再生手段が戻り位置を決定して、マルチメディアブラウザに通知しても良い。

【0106】

以上示した処理により、マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツを再生した際に、モノメディアコンテンツの再生状況に応じて次に再生するコンテンツを変化させることが可能となる。

【0107】

なお、実施の形態1、実施の形態2、実施の形態3とともに、マルチメディアコンテンツやモノメディアコンテンツを提供するコンテンツサーバが複数存在してもよい。

【産業上の利用可能性】

【0108】

本発明のコンテンツ再生システムは、ブロードバンドインターネットを利用したマルチメディアコンテンツとモノメディアコンテンツの再生システム等として有用である。また、インターネットに限らず、インターネットや家庭内LAN等でのコンテンツ再生システム等としても適用が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0109】

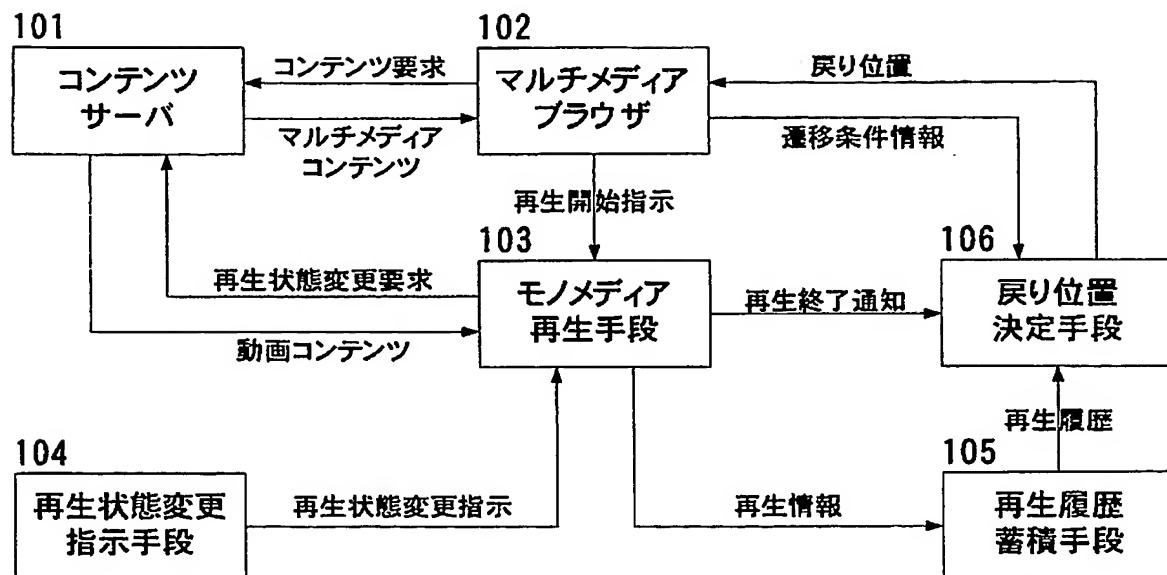
- 【図1】本発明の実施の形態1および2における構成図
- 【図2】マルチメディア記述の例（モノメディア再生後の遷移先が2つ）を示す図
- 【図3】モノメディアコンテンツ再生処理フロー図
- 【図4】モノメディアコンテンツ再生処理フロー図
- 【図5】マルチメディア記述の例（モノメディア再生後の遷移先が3つ）を示す図
- 【図6】戻り条件の記述方法を示す図
- 【図7】再生履歴蓄積手段に格納する再生履歴の例を示す図
- 【図8】実施の形態2における、戻り位置決定処理を表すフロー図
- 【図9】本発明の実施の形態3における構成図
- 【図10】実施の形態3における、戻り位置決定処理を表すフロー図

【符号の説明】

【0110】

- 101 コンテンツサーバ
- 102 マルチメディアプラウザ
- 103 モノメディア再生手段
- 104 再生状態変更指示手段
- 105 再生履歴蓄積手段
- 106 戻り位置決定手段

【書類名】 図面
【図 1】



【図 2】

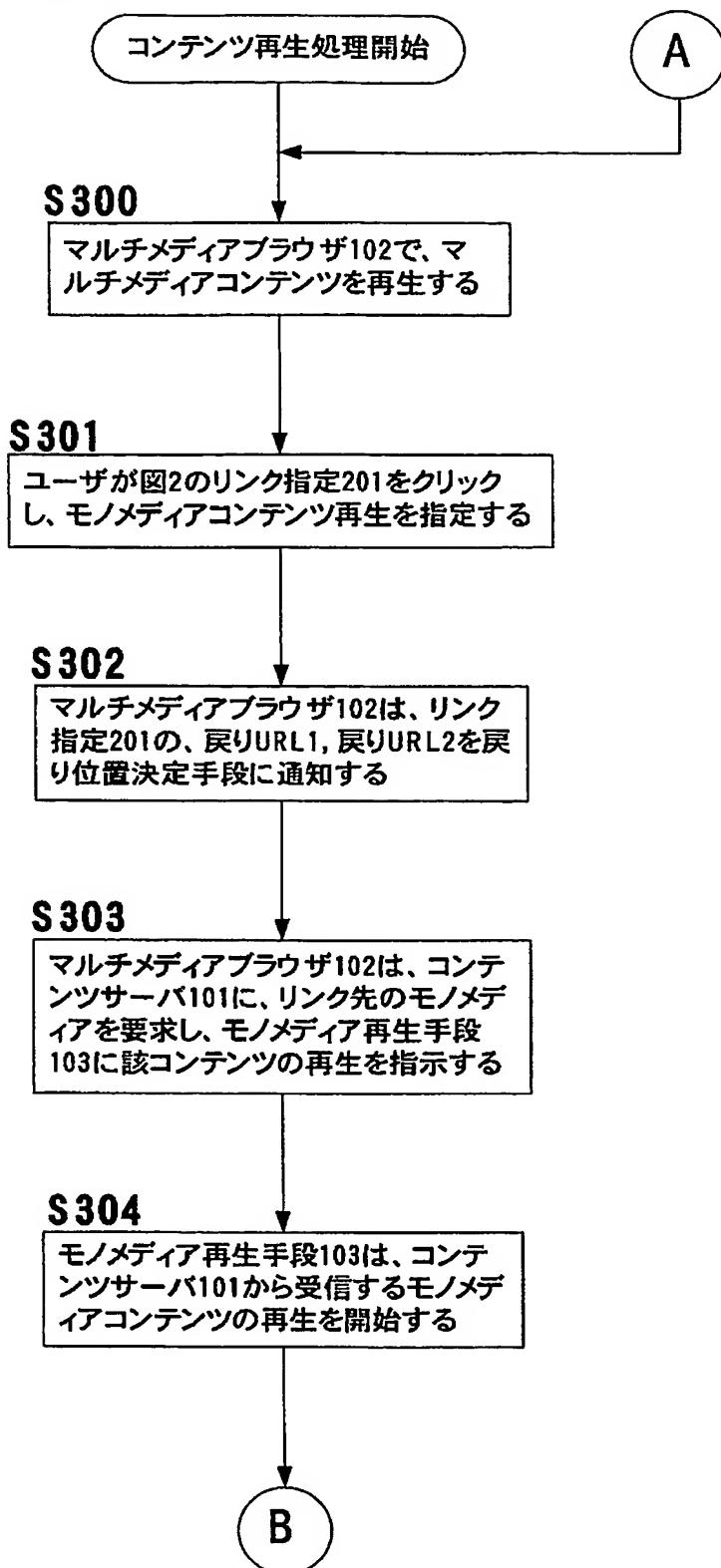
マルチメディアコンテンツ記述 2

```

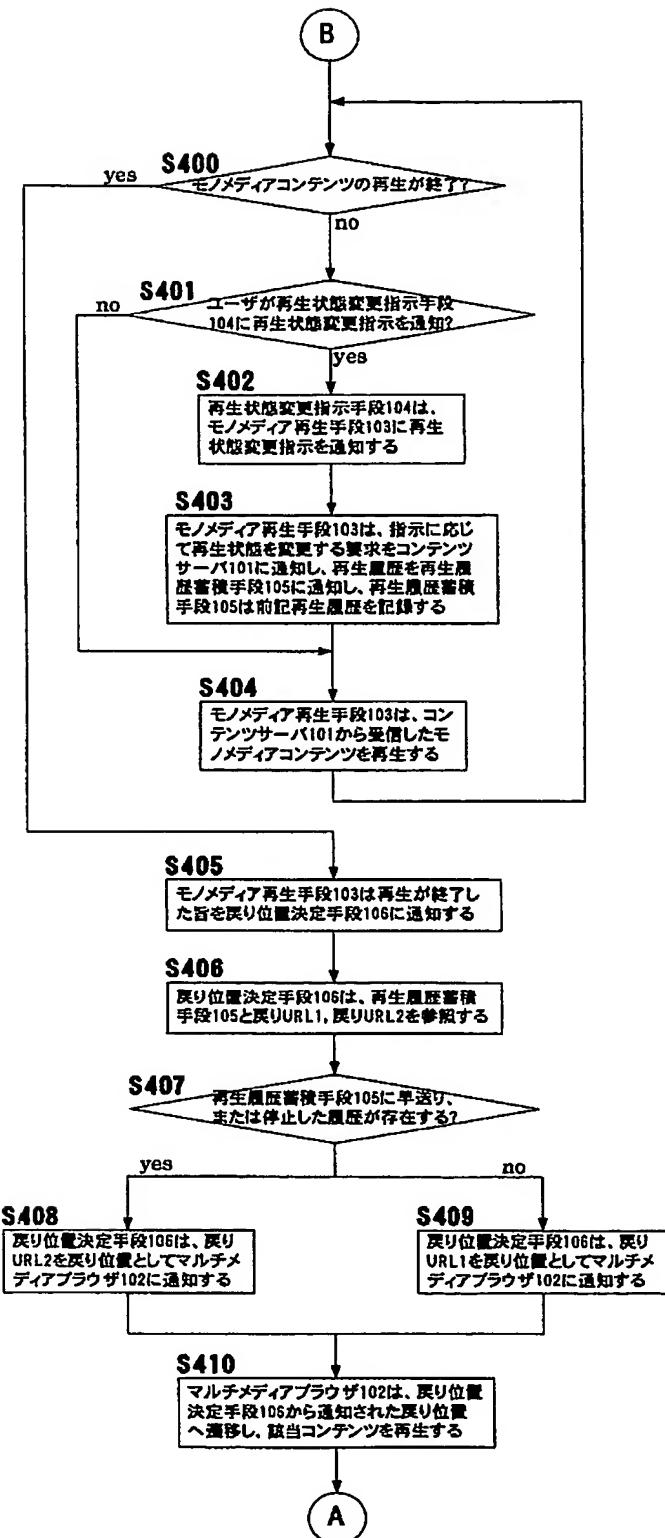
<html>
  <head>
    .....
  </head>
  <body>
    .....
    <a href = "モノメディアコンテンツのURL#戻りURL1#戻りURL2">モノメディアコンテンツ</a>
    .....
  </body>
</html>
  
```

リンク指定 201

【図3】



【図4】



【図5】

マルチメディアコンテンツ記述 5

```

<html>
<head>
  ...
</head>
<body>
  ...
  <a href="モノメディアコンテンツのURLを表すURL1$STOPを表すURL2$FF 00:05:00-00:10:00を表すURL3$FF 30-を表すURL4">モノメディアコンテンツ</a>
  ...
</body>
</html>

```

リンク指定 501

【図6】

戻り条件の記述例 6

```

戻り条件 = [¥]?COMMAND TERM? DURATION?
COMMAND = STOP | FF | REW | PAUSE ...
TERM = TIME-TIME | TIME- | -TIME
TIME = [0-9][0-9]:[0-5][0-9]:[0-5][0-9]
DURATION = -[0-9]+ | [0-9]+-

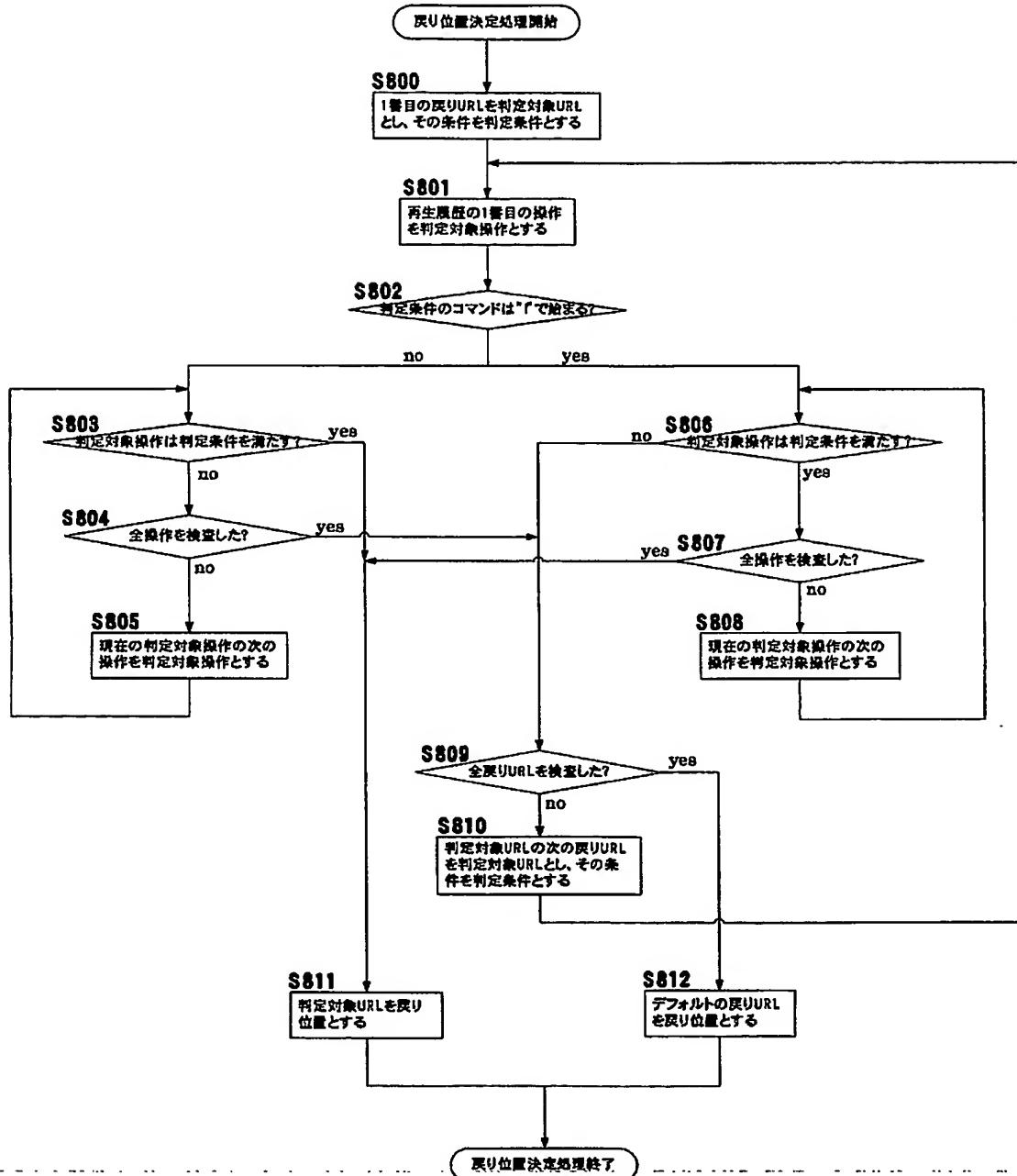
```

【図7】

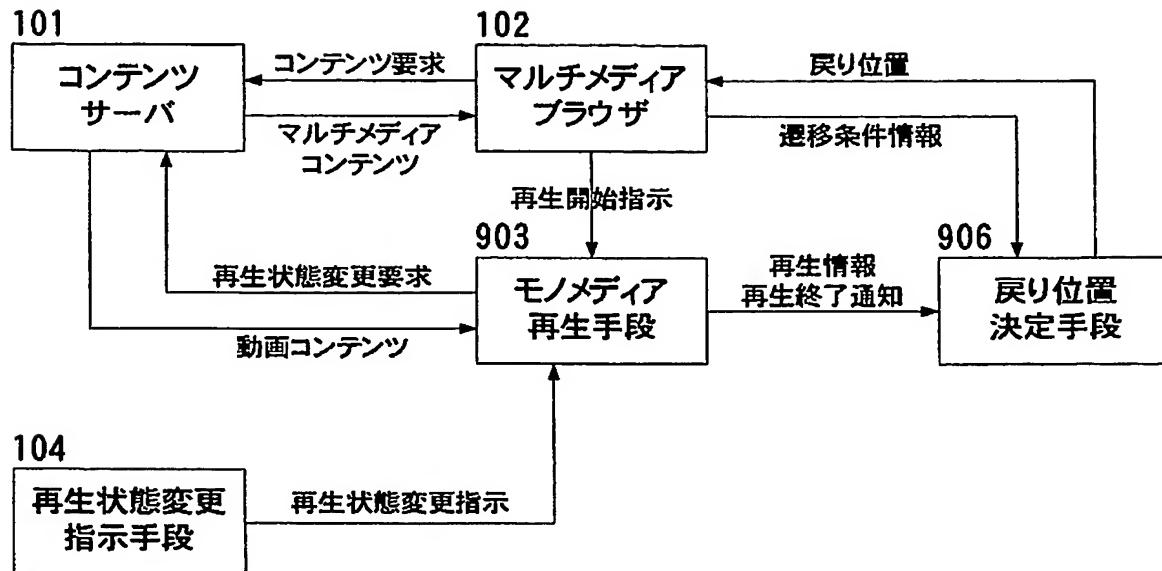
再生履歴の例 7

コマンド	操作タイミング	
START	-	701
FF	00:05:00-00:07:00	702
FF	00:35:00-00:40:30	703
REW	00:40:30-00:40:00	704
PAUSE	00:45:00	705

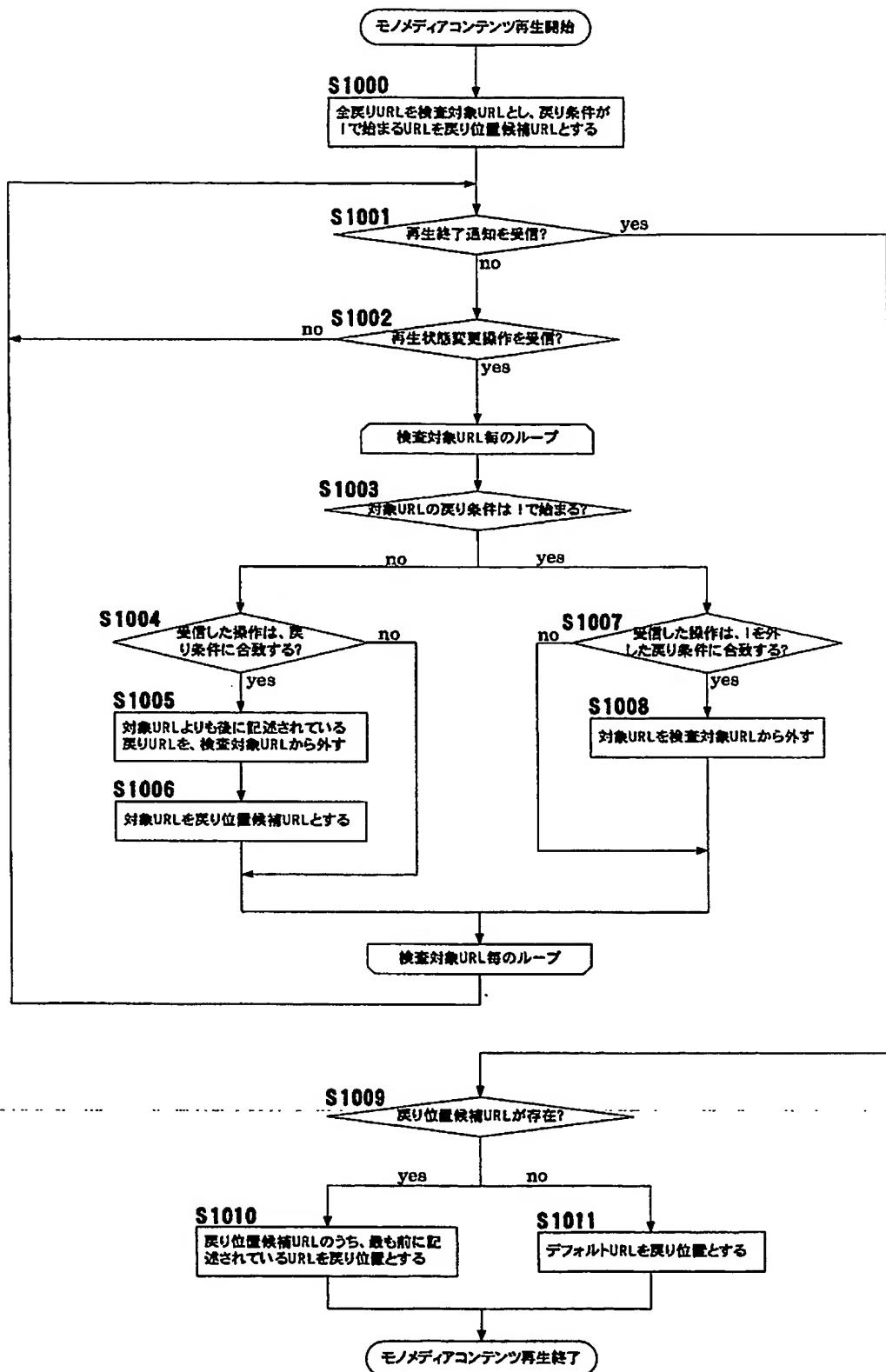
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツを指定して再生する際に、モノメディアコンテンツの再生状況に応じてモノメディアコンテンツ再生終了後に提示するコンテンツを変化させることができなかった。

【解決手段】マルチメディアコンテンツからモノメディアコンテンツへのリンク記述に、モノメディアコンテンツ再生後に提示するコンテンツの位置と、その条件を複数記述し、モノメディアコンテンツ再生時の操作が前記条件に合致するかどうかに応じて戻り先を変更する。

【選択図】図1

特願 2003-420667

出願人履歴情報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日 1990年 8月28日

[変更理由] 新規登録

住所 大阪府門真市大字門真1006番地
氏名 松下電器産業株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/018925

International filing date: 17 December 2004 (17.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2003-420667
Filing date: 18 December 2003 (18.12.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 17 February 2005 (17.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record.**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.